

実践のまとめ（第2学年 英語科）

令和3年11月1日第5校時
長岡市立江陽中学校
教諭 鎌田 雅俊

1 研究テーマ

ジャンル準拠ライティング指導を取り入れた書く力の育成

～「内容面」を意識した指導と思考・判断・表現における評価の在り方～

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領では「書くこと イ」の目標として、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」と記述されている。整理とは、「事実やテーマから想起される自分の考えや気持ちなどを整理したメモなどを基にして書くこと」とされている。まとまりのある文章を書くとは、相互に関連する文の順序や、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くということである。さらに、よりよく読み手に伝わるように、書き手の言いたいことに最もふさわしい表現形式かを工夫して表現できるようにすることも重要であると記載されている。このような力を育成するために、ジャンル準拠ライティング指導を取り入れ、一貫性を伴ったまとまりのある文章を書くことのできる生徒を育成したい。

英語学習では、1文を正確に書けるように何度も同じ英文を練習する機会が多々ある。もちろん単文を正確に書くことは重要である。一方で、ある程度まとまりのある文章を書いた際、一貫性に欠けると、書き手の気持ちや考えが十分に伝わらなくなってしまう。英語授業における単文のみの練習だけでは、「内容面」に関して力を伸ばすことは難しいと考える。したがって、授業ではまとまりのある文章を書く練習機会を設定し、何をどのように書いたら読み手にわかりやすく伝わるのかという書き方も指導していく。「内容面」に視点を向けた思考・判断・表現における生徒の書く力の向上に焦点をあて、仲間の考えを聞いたり、質問に応答したりする中で、書く内容を充実させていきたい。

(2) 研究テーマに迫るために

① 思考ツールの有効活用

生徒自身で自由に思考を広げたり、深めたり、新しい課題を発見したり、仲間から新たな情報を得たりすることのできる有効な手段であると考え。テーマについて、自分の考えがまとまらない生徒も視覚的に他のアイデアを見ることができ、考える過程で有益となる1つのツールである。また、よりよく読み手に伝えるために内容を精選したり、文を順序立てたりすることも可能である。

② 目的・場面・状況の適切な設定

誰に向けて書くのか、何のために書くのか、何を書くのかを生徒に意識させる。これらを考慮しながら、生徒が頭の中で伝える内容を思考し、アイデアをいくつか出した上でその中から何を伝えるべきかを判断し、最終的に英語でまとまりのある文章を表現させる。評価を考える上でも、教師側の適切な設定がとても大切になってくる。

(3) 研究テーマにかかわる評価

① 学習課題への取組の様子

抽出生徒の英語による文章記述の変容や振り返りの記述、教師による見取り

② 生徒の自己評価アンケートと振り返りの記述

- ・全生徒の自己評価アンケートにおいて、各項目で B以上とする生徒が 80% 以上
- ・振り返りの記述において、「目的・場面・状況を意識して書き、全体として一貫性のあるまとまった文章を書くことができた」などの肯定的記述の有無

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Lesson 5 Things to Do in Japan (NEW CROWN English Series 2 三省堂)

(2) 単元の目標

- ・日本で人気があるものについて書くために、必要な言語材料を理解することができる。
(知識・技能)
- ・アンケート結果を用いて、日本で人気があるものについて、事実や考えを加えながら、簡単な語句や文を使用し、まとまりのある文章を書くことができる。
(思考・判断・表現)
- ・読み手を意識して、日本で人気があるものについて、まとまりのある文章を書こうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 主に「書くこと」における単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 比較級・最上級・同等比較を理解している。 [技能] 日本の中学生の間で人気のあるものについて、アンケート結果を整理し、比較級・最上級・同等比較を活用して、まとまりのある文章を書く技能を身につけている。	ニュージーランドの中学生に日本のことを知ってもらうために、日本の中学生に人気のあるもののアンケートの結果について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	ニュージーランドの中学生に知ってもらう(～と交流する)ために、日本の中学生に人気のあるもののアンケートの結果について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

(4) 単元と生徒

本単元は、題材場面が旅行・観光、異文化体験である。言語の働きは、説明する、質問する、意見を言う、誘う、報告するである。扱われている言語材料は、比較級や最上級、同等比較となっており、単元目標は、テキストタイプがレポートのライティング活動である。学習形態を個人やペア、グループで仲間と協力し合いながら、考えを深め、再構築しながら、読み手にわかりやすく伝わるまとまりのある文章を書いていく。学習タスク、練習タスクの実践、そして評価タスクで生徒の書く力(主に内容面)の向上を見取りたい。

本時は、思考ツールを活用して、ライティングの「内容面」に視点を向けた活動を充実させる。思考ツールを用いた対話的な協働学習を取り入れ、授業ではまとまりのある文章を書く準備や練習機会を設定し、どのように英文を書いたら読み手にわかりやすく伝わるのか仲間同士で意見交流をさせたい。生徒が学習課題を確実に理解し、思考・判断・表現の観点に焦点をあてる姿勢も育てていく。

本学級の生徒は、何を書くべきか日本語でイメージする時は、前向きに書ける生徒が多い。しかし、いざ英語で書くとなるとどのように書き始めたら良いのか、どんな表現を用いて自分の言いたいことを表現したら良いのか、悩む生徒が大勢いる。教科書やモデル文で使用されている表現や、共同組立の中で触れた表現は活用する生徒はいる。しかし、既習事項を使いながら、内容を順序立ててまとまりのある文章を書くことが苦手な生徒が大多数である。学習課題を理解するまでに時間の掛かる生徒や集中が継続しない生徒もいるため、ワークシートの簡略化や活動時間等の工夫が必要になってくる。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全14時間、本時6／14時間）

※なお、本単元における「聞くこと」及び「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「発表」については目標に向けて指導・状況把握は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

次 (時数)	学習内容	学習活動
1 (2)	GET Part 1 ◎ longer than ... / the longest in	・形容詞の比較級（-er/-est）を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ・形容詞の比較級（-er/-est）を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。
2 (2)	GET Part 2 ◎ more / the most	・形容詞の比較級（more/most）を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ・形容詞の比較級（more/most）を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。
3 (3)	WRITING 1	日本のおすすめの季節について紹介文を書く。
	WRITING 2	日本のおみやげについて紹介文を書く。
	WRITING 3 本時	ニュージーランドの人たちに向けて、いつか日本に行ってみたいと感じてもらうために、日本のおみやげを紹介します。 事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く。 ※単元のゴールに向かっていく過程としたい。
4 (2)	GET Part 3 ◎ as cute as ... /	・同等比較（as ... as ～）や副詞の比較級を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。 ・同等比較（as ... as ～）や副詞の比較級を理解し、それを含む英文を即興で話したり、即興で伝え合ったり、正確に書いたりする。
5 (2)	USE Read 説明文	ニュージーランドの姉妹校の先生から届いたメールを読んで、その要点を把握する。
6 (3)	USE Write レポート	日本の中学生に人気のあるものを調べて、その結果をまとめたレポートを書く。 ※主な評価規準は、3（3）を参照

4 本時の展開

(1) ねらい

有効な思考ツールの活用を通して、日本のおみやげを紹介するレポート原稿を書き、いつか日本に行ってみたいと思ってもらえるようなまとまりのある文章を練ることができる。

(2) 展開の構想

文章を書く型を確認し、思考ツールを用いてBodyの部分を作成する。仲間と考えや表現を共有して、目的・場面・状況を踏まえた文章になっているか、よりよく読み手に伝わる文

章になっているかなどを練り上げる。単元途中の書く活動をゴールへ向かっていく練習タスクとしたい。

(3) 展開

時間(分)	・学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
12分	1 導入 ペアトーク	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題で使用できそうな表現を含んだ会話活動 ・Teacher's Talkで雰囲気づくりと会話の進め方を示す。 ・English for Communication確認 	<input type="checkbox"/> ペアで英語を使い、なんとか相手に伝えようとしているか。 <input type="checkbox"/> 説明する、あいづちを打つ、質問する、を促す。
9分	2 復習 まとまりのある文章を書く型を確認	<ul style="list-style-type: none"> ・Opening → Body → Closing ・目的 / 場面 / 状況を踏まえた読みやすい内容とは？ ・前時に練習した型についての英文を全体で確認する。 ・ペアでのやり取りで言いたかたけど言えなかった英語表現を復習する。 	◇確実に押さえる点は学級全体の理解度を見取りながら、日本語でも説明を入れる。
1分	3 学習課題提示	◎レポート原稿の書き方の型を用いて、日本のおみやげについて、まとまりのある文章を書いてみよう！	
21分	4 学習タスク 準備 5分 ペア 16分	<ul style="list-style-type: none"> ・書き方の型と思考ツールを用いて主にBodyの部分を作成 ・架空のニュージーランド人を学級の号車ごとに提示し、その人に対して日本のおみやげを紹介する。 ・タブレット端末での個人活動 ・タブレット端末を使用し、ペアで考えをまとめていく。 ・ワークシートに記入する。 	<input type="checkbox"/> 仲間で協力し合い、課題に正対しているか。 <input type="checkbox"/> まとまりのある文章にするために適切な英語表現を使っているか。 <input type="checkbox"/> 目的・場面・状況に沿った英語の文章になっているか。 <input type="checkbox"/> 全体で共有すべき内容か判断する。
6分	5 発表・共有	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出ペアが全体に発表する。 	<input type="checkbox"/> 全体で共有すべき文章を書いているペアを精選する。 <input type="checkbox"/> 発表後、補足をする。 <input type="checkbox"/> 単元のゴールにつながることを全体で確認する。
1分	6 次回に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・できたことを全体に返し、次へのステップとする。 	◇改善点があれば伝える。

(4) 評価

- ・レポート原稿作成において、書き方の型を踏まえた目的に沿ったわかりやすい文章を書くことができているか【思考・判断・表現】

- ・思考ツールを活用して、なんとか目的・場面・状況に沿った文章を英語で書こうとしているか【主体的に学習に取り組む態度】

5 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① English for Communication (図1) の提示

まとまりのある文章を書いていくために、何をどのように書くと読み手にわかりやすく伝わるのか、構成や順序、理由の示し方などを仲間と英語でやり取りして考えていくためにこのシートを提示し、練習を重ねた。また、仲間の考えを聞いたり、質問に応答したりする中で、読み手を意識した「内容面」の充実を目指した。このシートの英語表現は常に更新させ、中学校3年間を通して英語で話し合い活動や討論ができる生徒の育成の一助としたい。

33	What is your idea?	あなたの考えは何ですか？
34	How about you?	あなたはどうですか？
35	Do you have any other idea?	他に良い考えはありますか？
36	I think this is the best.	私はこれが1番良いと思います。
37	I think so, too.	私もそう思います。
38	I don't think so.	私はそう思いません。
39	I agree with you.	私はあなたと同じ意見です。
40	I disagree, because ~.	私は反対です。なぜなら~。
41	I think it's good, because ~.	それは良いと思います。なぜなら~。
42	Our opinion is ~.	私たちの意見は~です。

図1

② 目的・場面・状況の適切な設定



図2

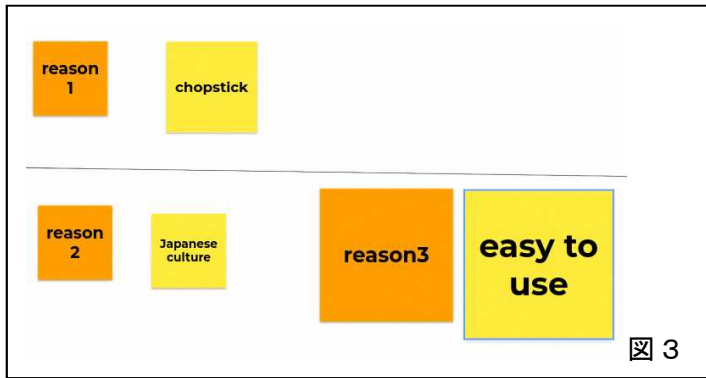
架空のニュージーランド人(図2)を学級の号車ごとに提示し、その人に対して日本のおみやげを紹介しようとする課題に取り組んだ。

誰に対して、何のために書くのかが明確になっていれば、そのことに正対して適切な内容や表現を選択して書こうとする意識も芽生えてくるだろうと考える。また、書く活動の最後には、学級全体でどのような視点から英文を

書いたのか共有する時間を設け、読み手を意識した英文になっているのか生徒自身で確認することが大切である。この時間の積み重ねこそが、書く力の向上には必須であると考えられる。本時ではフィードバックする時間を作ることはできなかったが、単元のゴールに向かう中で必ず振り返りを行い、次へのステップとしたい。

(2) 研究テーマに関わって

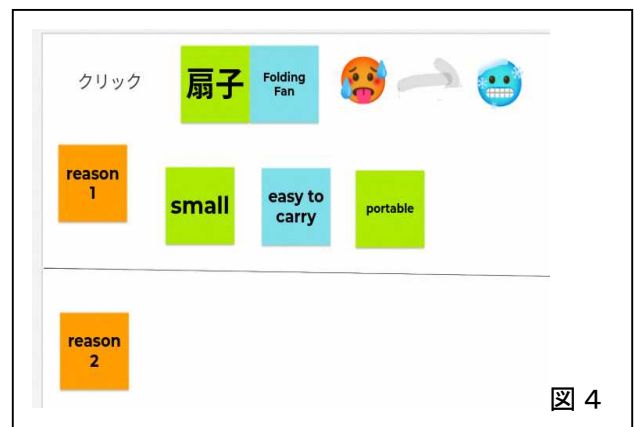
前述したEnglish for communicationの活用と適切な場面設定を行い、「内容面」に関して英語を用いてのペア活動を行った。その際に、思考ツールのひとつであるGoogle Jamboardを使った。以下に、成果と課題を述べる。



Jamboardアプリを使って、仲間同士の協働を促進し、学習意欲を高める手立てを講じた。ペアとなり、何をどのように書いていくか、相手が求めていることは何かを確認してその人に適したものはどのようなものかなど「内容面」に焦点をあてて熟考する時間を設けた。図3は抽出生徒ペアの思考過程である。図2で示し

たEmilyさんに対して日本のおみやげを紹介しようとしている。付箋を置く位置が曖昧ではあるが、日本独自の箸を紹介しようと決めており、「日本の文化だから」「使うには簡単だ」と理由も添えていることがわかる。このようにJamboardを活用することによって誰にでも発言権が与えられ、思考の視覚化ができるメリットもあることがわかった。

右の図4も他の抽出生徒ペアの思考過程である。一見、ペアでやり取りをしながら思考を重ねているように見えるが、reason 1のところには3つもの理由が並べられている。これでは書く際に、まとまりのある英文の構造にあてはめて書くことができないはずである。思いついたままに考えを挙げることも大切だが、ツール使用方法において難を感じていた生徒も少なくはなかったのかもしれない。



下の図5と図6は抽出生徒の文章記述である。図2の相手に対して書いている。紹介しているおすすめのおみやげは、寿司とすき焼きである。本場日本でしか味わうことのできない食べ物を挙げてはいるものの、“おみやげ”としてはどうだろうか。生徒のこのような英文の産出からも教師が提示する目的・場面・状況がいかにより重要であるか実感した。本研究では「内容面」に焦点をあてて、相手意識をもたせ、ペアで英文の中身を充実させるためにはどのような手段が必要になってくるのか考えてきた。少し「言語面」に視点を移すと課題は多く残る。指導と評価の一体化を今後も念頭に置き、指導にあたる。

<Body> ※原文のまま
 First, Sushi is famous food in Japan, because it is Washoku.
 Second, There are many types of sushi, example there is Salmon.
 Salmon is delicious. 図5

<Body> ※原文のまま
 First, Because Sukiyaki is only in Japan. Second, Because It is very delicious. There are times when it's little salty. But it isn't salty when attached to eggs. 図6

(3) 今後の課題

①活動の動・静

本時では、英語のみでやり取りをする、相手のリクエストを読んで理解した上で「内容面」を深く考える、Jamboardを活用するなど求めることが多岐に渡ってしまい、生徒には多くのハードルを与えてしまった。授業のゴールは1つに絞り、集中しやすい学習環境を提供するべきであった。また、スモールステップの過程も大切にして、英語と日本語

の使用場面をひと工夫したり、1人でライティングにじっくり取り組む時間の設定も行ったりと授業の展開をマネジメントする専門性も培っていききたい。

② ICT使用の効率化

生徒側は自由に思考を広げたり、深めたり、仲間から新たな情報を得たりすることのできる有効な手段であると考え。自分の考えがまとまらない生徒においては、視覚的に他のアイデアを見ることができ、考える過程で有益となる1つのツールである。教師側は課題の作成や配付が容易であり、使用を効率化することで生徒の活動時間をより確保することが可能となる。1人1台タブレット端末時代の新たな学びに対応できる柔軟な指導実践力を身につけるため、新しいことに臆することなく挑戦し続けていく。

<参考文献>

安宅・松沢 (2016). 「まとまりのある文章を書く力の指導と評価の改善

—ジャンルと学習・練習・評価タスクを用いて—」 関東甲信越英語教育学会学会誌 vol. 30

文部科学省 (2018). 「中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語編」